

授業科目名	人間の尊厳と自立				
担当者	国吉 智恵				
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。・ 一つは福祉理念の歴史の変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。・ 【ねらい】・ 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。</p>					
<p>(到達目標)(1)人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。・ (2)人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解できるようにする。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・</p>					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	人間の尊厳について1			講義	国吉 智恵
2	人間の尊厳について2			講義	国吉 智恵
3	自立と自律1			講義	国吉 智恵
4	自立と自律2			講義	国吉 智恵
5	人権について1			講義	国吉 智恵
6	人権について2			講義	国吉 智恵
7	人権について3			講義	国吉 智恵
8	人権について4			講義	国吉 智恵
9	人間の尊厳と自立について1			講義	国吉 智恵
10	人間の尊厳と自立について2			講義	国吉 智恵
11	人間の尊厳と自立について3			講義	国吉 智恵
12	人間の理解1			講義	国吉 智恵
13	人間の理解2			講義	国吉 智恵
14	人間の理解3			講義	国吉 智恵
15	まとめ、試験			講義	国吉 智恵
<p>■期末試験（80）％ ■提出物（20）％ □小テスト（ ）％ □実技試験（ ）％ □口頭試験（ ）％ □発表（ ）％ □その他（ ）（ ）％</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>					
教科書					
書名		著者		出版社	
最新・介護福祉士養成講座「1 人間の理解」				中央法規出版	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）					



授業科目名	人間関係とコミュニケーション I				
担当者	国吉 智恵				
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて理解する。・ 【ねらい】・ 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。・ 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする</p>					
(到達目標)(1)人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解できるようにする。					
履修における注意事項(受講ルールなど)					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	人間関係について1			講義	国吉 智恵
2	人間関係について2			講義	国吉 智恵
3	人間関係について3			講義	国吉 智恵
4	人間関係について4			講義	国吉 智恵
5	人間関係について5			講義	国吉 智恵
6	コミュニケーションについて1			講義	国吉 智恵
7	コミュニケーションについて2			講義	国吉 智恵
8	コミュニケーションについて3			講義	国吉 智恵
9	コミュニケーションについて4			講義	国吉 智恵
10	コミュニケーションについて5			講義	国吉 智恵
11	介護における尊厳の保持と自立支援1			講義	国吉 智恵
12	介護における尊厳の保持と自立支援2			講義	国吉 智恵
13	介護における尊厳の保持と自立支援3			講義	国吉 智恵
14	介護における尊厳の保持と自立支援4			講義	国吉 智恵
15	まとめ、試験			講義	国吉 智恵
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (20) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					
教科書					
書名		著者		出版社	
最新・介護福祉士養成講座 「1 人間の理解」				中央法規出版	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)					



授業科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ						
担当者	非常勤講師						
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	30	単位数	
授業の概要・到達目標							
<p>(概要)・ チームマネジメントでは、ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ。・ 【ねらい】・ 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。・ 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。</p>							
<p>(到達目標)(2)介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活動等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本を理解できるようにする。・</p>							
履修における注意事項（受講ルールなど）							
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験</p>							
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	イントロダクション、システムについて①			講義	非常勤講師		
2	システムについて ②			講義	非常勤講師		
3	システムについて ③			講義	非常勤講師		
4	施設管理の実際①-特養 施設管理			講義	非常勤講師		
5	施設管理の実際②-中間管理者 人材教育管理			講義	非常勤講師		
6	"			講義	非常勤講師		
7	"			講義	非常勤講師		
8	施設管理の実際③-在宅 起業運営管理			講義	非常勤講師		
9	"			講義	非常勤講師		
10	対人援助に基づくロールプレイ			講義、演習	非常勤講師		
11	"			講義、演習	非常勤講師		
12	組織におけるコミュニケーション			講義、演習	非常勤講師		
13	"			講義、演習	非常勤講師		
14	まとめ、発表			講義、演習	非常勤講師		
15	まとめ、発表			講義、演習	非常勤講師		
<p>■期末試験（50）% ■提出物（30）% □小テスト（ ）% □実技試験（ ）% □口頭試問（ ）% ■発表（20）% □その他（ ）（ ）%</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>							
教科書							
書名		著者		出版社			
最新・介護福祉士養成講座 「1 人間の理解」				中央法規出版			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）							



授業科目名	社会の理解		
担当者	羽鳥 訓秀/ 国吉 智恵		
開講年次	1年	開講期	1年後期
		授業回数	30
		単位数	
授業の概要・到達目標			
<p>(概要)・ 生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。・ 【ねらい】・ 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。・ 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得とする学習とする。・ 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。・ 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。</p>			
<p>(到達目標)(4)高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容、高齢者福祉の現状と課題を理解できるようにする。・ (5)障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容、障害者福祉の現状と課題を理解できるようにする。・ (6)人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解</p>			
履修における注意事項（受講ルールなど）			
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験			
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。			
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	介護保険制度1	講義	羽鳥 訓秀
2	介護保険制度2	講義	羽鳥 訓秀
3	介護保険制度3	講義	羽鳥 訓秀
4	介護保険制度4	講義	羽鳥 訓秀
5	介護保険制度5	講義	羽鳥 訓秀
6	介護保険制度6	講義	羽鳥 訓秀
7	介護保険制度7	講義	羽鳥 訓秀
8	障害者総合支援制度1	講義	羽鳥 訓秀
9	障害者総合支援制度2	講義	羽鳥 訓秀
10	障害者総合支援制度3	講義	羽鳥 訓秀
11	介護実践に関する諸制度1	講義	国吉 智恵
12	介護実践に関する諸制度2	講義	国吉 智恵
13	介護実践に関する諸制度3	講義	国吉 智恵
14	介護実践に関する諸制度4	講義	国吉 智恵
15	まとめ、試験	講義	国吉 智恵
<p>■期末試験（50）％ ■提出物（20）％ □小テスト（ ）％ □実技試験（ ）％ □口頭試問（ ）％ □発表（ ）％ ■その他（中間試験）（30）％ ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>			
教科書			
書名	著者	出版社	
最新・介護福祉士養成講座 「2 社会と制度の理解」		中央法規出版	
書名	著者	出版社	
参考書			
書名	著者	出版社	
書名	著者	出版社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）			



授業科目名	社会の理解				
担当者	国吉 智恵				
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。・ 【ねらい】・ 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。・ 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得とする学習とする。・ 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。・ 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする</p>					
<p>(到達目標)(1)個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会のかかわりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できるようにする。・ (2)地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のため制度・施策を理解できるようにする。・ (3)社会保障制度の基本的な考え方としくみ、社会保障の現状と課題を理解できるようにする。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・</p>					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	生活と福祉1			講義	国吉 智恵
2	生活と福祉2			講義	国吉 智恵
3	生活と福祉3			講義	国吉 智恵
4	生活と福祉4			講義	国吉 智恵
5	生活と福祉5			講義	国吉 智恵
6	生活と福祉6			講義	国吉 智恵
7	社会保障制度1			講義	国吉 智恵
8	社会保障制度2			講義	国吉 智恵
9	社会保障制度3			講義	国吉 智恵
10	社会保障制度4			講義	国吉 智恵
11	社会保障制度5			講義	国吉 智恵
12	社会保障制度6			講義	国吉 智恵
13	社会保障制度7			講義	国吉 智恵
14	社会保障制度8			講義	国吉 智恵
15	まとめ、試験			講義	国吉 智恵
<p>■期末試験（80）% ■提出物（20）% □小テスト（ ）% □実技試験（ ）% □口頭試問（ ）% □発表（ ）% □その他（ ）（ ）%</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>					
教科書					
書名		著者		出版社	
最新・介護福祉士養成講座 「2 社会と制度の理解」				中央法規出版 2020年	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	哲学						
担当者	赤井 清						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	
授業の概要・到達目標							
<p>(概要)・ 現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う学習とする。・ 【ねらい】・ ・人生の根本原理についての基礎的理解を深める。・ ・事物の根本原理についての考え方や論理的思考のあり方を学び、介護・福祉の専門性を追求する思考を育成し、自らの人生観・死生観を構築していく為の基盤とする。・</p>							
(到達目標)・学生が、介護・福祉哲学について自らの考えを論理的に述べるができる。							
履修における注意事項（受講ルールなど）							
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験							
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	自己紹介と講義概要の説明			講義	赤井 清		
2	近くの本性 1.見えないのに見えている？先入観を生む「事実」			講義	赤井 清		
3	近くの本性 2.見えないのに見えている？分離脳手術の結果			講義	赤井 清		
4	第2章 3.見えるのに見えていない？盲目否認の場合			講義	赤井 清		
5	第2章 4.どんな現象から出発したらいいの？			講義	赤井 清		
6	第2章 5.目が動いていないと三角形が見えない？			講義	赤井 清		
7	第2章 6.見誤りと錯覚			講義	赤井 清		
8	第2章 7.三角形には形がない？			講義	赤井 清		
9	まとめ、中間試験			講義	赤井 清		
10	DVD視聴			講義	赤井 清		
11	第3章 1.意識,思想,事由,瞬間の悪夢			講義	赤井 清		
12	第3章 2.いくつもの思考の「流れ」と創造性知覚が思考を抑制			講義	赤井 清		
13	第3章 3.独創的な思いつき・意識とは何か？			講義	赤井 清		
14	第3章 4.自由にそして、もっと適切に行動するには			講義	赤井 清		
15	まとめ、終講試験			講義	赤井 清		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中間試験) (50) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
「哲学にご用心」				ナカニシヤ出版			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）							





授業科目名	レクリエーション支援法①				
担当者	久場 勝子				
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	20
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ (理論)・レクリエーションインストラクターとしての基礎知識の理解・ ・レク事業参加、地域現場実習、野外活動実習・ 【ねらい】・ (理論)・レクリエーション全般の学習を通して「楽しさの重要性」を理解、コミュニケーション力の向上を図る。・ ・地域、福祉、医療、保健の領域でのプログラムの提供、支援者としての人間性を磨くことを手段とし、他者へ役立つことの喜び、達成感を体感する。</p>					
<p>(到達目標)(理論)・レクリエーションインストラクターとしての基礎知識の獲得・ レクリエーションの意義、インストラクターの役割を理解し、企画・運営上の具体策を理解できる。・ ・</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	(理論)レクの基礎理論 1)レク支援の基本的な考え方,語源の考察			講義	久場 勝子
2	(理論)2)レク運動,制度,レク・インストラクターの役割			講義	久場 勝子
3	(理論)3)レクリエーションの意義・必要性			講義	久場 勝子
4	(理論)地域現場実習 1			講義、演習	久場 勝子
5	(理論) " 2			講義、演習	久場 勝子
6	(理論)レクの支援論 1)ライフスタイルとレクリエーション			講義	久場 勝子
7	(理論)2)少子高齢社会の課題			講義	久場 勝子
8	(理論)3)地域とレクリエーション対象の生活課題			講義	久場 勝子
9	(理論)レク事業論 1)レク事業論の考え方及び展開法,計画			講義	久場 勝子
10	(理論) 2)レク活動体験,仲間の集い計画,実施評価、筆記試験			講義	久場 勝子
■期末試験（50）% □提出物（ ）% □小テスト（ ）% ■実技試験（30）% □口頭試験（ ）% ■発表（20）% □その他（ ）（ ）% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					
教科書					
書名		著者		出版社	
「楽しさをとおした心の元気づくり」レクリエーション支援の理論と方法				公益財団法人日本レクリエーション協会出版 2017年	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	レクリエーション支援法②				
担当者	久場 勝子				
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・</p> <p>(実技)・レクリエーションインストラクターとしての基礎知識の理解・</p> <p>・レク事業参加、地域現場実習、野外活動実習・</p> <p>【ねらい】・</p> <p>(実技)・様々な実技を通して、個人や集団とのコミュニケーションスキルを体験的に学ぶ。・</p> <p>・活動領域や対象に合わせての展開方法、集団の相互作用の引き出し方、支援法を学ぶ。</p>					
<p>(到達目標)(実技)・レクリエーションインストラクターとしての基礎知識の獲得・</p> <p>目的に合わせたアクティビティの展開方法、相互作用の引き出し方と活用方法を実施できる。・</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上)・</p> <p>授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験</p>					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	1. コミュニケーションワーク 1)アイスブレイキング			講義	久場 勝子
2	2)アイスブレイキング方法			講義	久場 勝子
3	3)ホスピタリティーとは			講義	久場 勝子
4	4)ホスピタリティーの示し方			講義	久場 勝子
5	5) " (演習)			演習	久場 勝子
6	6) " (演習)			演習	久場 勝子
7	2. 目的に合わせたレクリエーションワーク 1)目的別アクティビティの選択			講義	久場 勝子
8	2) "			講義	久場 勝子
9	3)目的別アクティビティの選択			講義	久場 勝子
10	4) "			講義	久場 勝子
11	演習1. 地域現場実習1			演習	久場 勝子
12	演習2. " 2			演習	久場 勝子
13	事業計画 1. 地域支援、計画、実施、評価			演習	久場 勝子
14	事業計画 2. 教育、指導実習の企画			演習	久場 勝子
15	実習まとめ			演習	久場 勝子
<p>■期末試験 (50) % □提出物 () % □小テスト () % ■実技試験 (30) %</p> <p>□口頭試問 () % ■発表 (20) % □その他 () () %</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>					
教科書					
書名		著者		出版社	
「楽しさをとおした心の元気づくり」レクリエーション支援の理論と方法				公益) 日本レクリエーション協会出版社	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）					



授業科目名	レクリエーション支援法③				
担当者	久場 勝子				
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	20
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ (支援実技)・レクリエーションインストラクターとしての基礎知識の理解・ ・レク事業参加、地域現場実習、野外活動実習(宿泊キャンプ)・ 【ねらい】・ レクリエーションの知識や技術が実際の現場でどのように役立つかを体験学習する。</p>					
<p>(到達目標)(支援実技)・レクリエーションインストラクターとしての基礎知識の獲得・ 指導演習を通して、対象に合わせた学習内容や教材の構成を評価できる。</p>					
履修における注意事項(受講ルールなど)					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	対象にあわせたレクリエーションワーク 1			実技	久場 勝子
2	対象にあわせたレクリエーションワーク 2			実技	久場 勝子
3	対象別アレンジ方法 1			実技	久場 勝子
4	対象別アレンジ方法 2			実技	久場 勝子
5	指導実習の企画 1			実技	久場 勝子
6	指導実習の企画 2			実技	久場 勝子
7	活動領域別 指導体験、実践に関するオリエンテーション			実技	久場 勝子
8	レクリエーション支援法まとめ			実技	久場 勝子
9	"			実技	久場 勝子
10	"			実技	久場 勝子
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (30) % <input type="checkbox"/> 口頭試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (20) % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					
教科書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)					



講師作成資料

授業科目名	栄養調理						
担当者	金城 典子/ 国吉 美佐江						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	46	単位数	
授業の概要・到達目標							
(概要)・ ・調理実習・ ・テーブルマナー(フランス式)について学ぶ。・ 【ねらい】・ ・調理の原理を科学的に理解し、調理の種類と基本操作、調理器具や設備等に関する知識を習得する。							
(到達目標)・健康の保持・増進及び疾病の予防に寄与する食生活の重要性を認識することができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・							
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	オリエンテーション・実習心得・食器器具準備と点検			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
2	" (食器・器具の名称を覚える)			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
3	調理の基礎・お粥の種類・鯖の煮付け・みそ汁			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
4	" (お粥の種類、魚料理のコツ、だしのとり方、味噌汁の基本)			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
5	マーミナチャンプルー・トマトの酢の物・かき玉汁			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
6	" (炒め物・酢の物の基本、卵を入れるタイミングの理解)			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
7	ソーミンタシヤー・かぼちゃのそぼろ煮・サーターアンダーギー			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
8	" (麺類の扱い方、揚げ物の基本)			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
9	ジューシー・ウサチ小(酢の物)・ゆし豆腐			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
10	" (鍋でご飯を炊くことができる)			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
11	肉じゃが・あさりと三つ葉の吸い物・ベジくずもち			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
12	" (煮物の基本、貝の扱い方、いもくずの調理法)			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
13	秋刀魚の焼き漬け・茶碗蒸し・もずくの酢の物			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
14	" (焼き物・蒸し物の基本)			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
15	クリームシチュー・グリーンサラダ・抹茶白玉			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
16	" (ホワイトソースの基本、フレンチドレッシングを作る、団子の調理法)			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
17	天ぷら・アーサ汁・いんげんのごま和え			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
18	" (揚げ物の基本、汁物の調理)			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
19	鮭のホイル焼き・人参のポタージュ・黒糖蒸しパン			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
20	" (ホイル焼きの調理法、ポタージュスープの調理法、蒸しパンの基本)			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
21	豆腐ハンバーグ・中華風スープ			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
22	" (介護食の基本、調理法を学ぶ)			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
23	テーブルマナー; 県内ホテルにて会食セミナー			講義/実技	金城 典子/ 国吉 美佐江		
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (70) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (授業態度) (30) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			

参 考 書		
書 名	著 者	出 版 社
書 名	著 者	出 版 社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		
講師作成印刷資料		

授業科目名	心理学				
担当者	北上田 美和				
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ こころのしくみの基礎を知るとともに、介護技術の根拠となる人間の欲求の基本的理解を深めることを目的とする。心理学的な人間の欲求や自己概念、人のとらえ方を学習する。・ 【ねらい】・ 人間の発達段階におけるパーソナリティ・行動様式諸問題を理解させ、対象との良い人間関係を保つ基礎的知識を習得させる学習とする。</p>					
<p>(到達目標)介護福祉士となるために必要な心理学的な知識を得て、積極的に人とかかわる感受性と、豊かな人間性を備えたるための基本的な対人関係を構築できる。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験</p>					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	オリエンテーション 「心理学」の学問体系				北上田 美和
2	Ⅰ. こころのしくみ ・知覚について				北上田 美和
3	・記憶のしくみ			講義	北上田 美和
4	・脳と心			講義	北上田 美和
5	Ⅱ. 人間の発達			講義	北上田 美和
6	・コメントの交換			講義	北上田 美和
7	・MPD(多重人格)			講義	北上田 美和
8	・環境の影響と病理			講義	北上田 美和
9	・Personality ・Personality ego gram			講義	北上田 美和
10	・エゴグラム解釈1 ・エゴグラム解釈2			講義	北上田 美和
11	Ⅲ. こころのはたらき、こころの成長			講義	北上田 美和
12	・発達の概念			講義	北上田 美和
13	・ユング 青年期の課題			講義	北上田 美和
14	・学習と動機づけ ・不応と心理療法			講義	北上田 美和
15	まとめ、試験			講義	北上田 美和
<p>■期末試験 (70) % ■提出物 (30) % □小テスト () % □実技試験 () % □口頭試問 () % □発表 () % □その他 () () %</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>					
教科書					
書名		著者		出版社	
「ダイアグラム心理学」				北大路書房	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）					



授業科目名	介護の基本①				
担当者	専任教員/ 渡慶次 司/ 非常勤講師				
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士法の立案月に「介護デー」と題し、福祉施設を見聞し福祉精神の涵養を図る。・ ・医療福祉の施設を見学し、介護を必要とする人の理解、施設の概要や場の特性等を学ぶ。・ ・介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。・ <p>【ねらい】・</p> <p>介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p>					
<p>(到達目標)(1)複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できるようにする。・</p> <p>(2)地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解できるようにする。・</p> <p>(3)介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を養う。・</p> <p>(4)ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解できるようにする。・</p> <p>(5)介護を必要とする人の生活の個性に対応するために、生活の多様性や社会とのかかわりを理解できるようにする。・</p> <p>(6)介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解できるようにする。・</p> <p>(7)多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解できるようにする。・</p> <p>(8)介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できるようにする。・</p> <p>(9)介護従事者自身が心身に健康に介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できるようにする。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・					
授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	介護デー①・ (一日体験ボランティア学習;介護を必要とする人の実際の生活を学ぶ)・	実技	渡慶次 司/ 非常勤講師		
2	介護デー②	実技	渡慶次 司/ 非常勤講師		
3	介護デー③	実技	渡慶次 司/ 非常勤講師		
4	介護デー④	実技	渡慶次 司/ 非常勤講師		
5	介護デー報告会準備①	講義・演習	渡慶次 司/ 専任教員		
6	介護デー報告会準備②	講義・演習	渡慶次 司/ 専任教員		
7	介護デー報告会準備③	講義・演習	渡慶次 司/ 専任教員		
8	介護デー報告会①	講義・演習	渡慶次 司/ 専任教員		
9	介護デー報告会②	講義・演習	渡慶次 司/ 専任教員		
10	介護デー報告会③	講義・演習	渡慶次 司/ 専任教員		
11	介護デー報告会④	講義・演習	渡慶次 司/ 専任教員		
12	社会福祉施設見学①(点字図書館)	実技	渡慶次 司/ 非常勤講師		
13	社会福祉施設見学②(点字図書館)	講義・演習	渡慶次 司		
14	社会福祉施設見学③(救護園)	実技	渡慶次 司/ 非常勤講師		
15	社会福祉施設見学④(救護園)	講義・演習	渡慶次 司		
<p>■期末試験(30)% ■提出物(20)% □小テスト()% □実技試験()%</p> <p>□口頭試験()% ■発表(20)% ■その他(中間試験)(30)%</p>					
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					
教科書					

書名	著者	出版社
最新・介護福祉士養成講座 「3 介護の基本Ⅰ」「4 介護の基本Ⅱ」中央法規出版 2020年		中央法規出版
書名	著者	出版社
参考書		
書名	著者	出版社
書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	介護の基本②				
担当者	渡慶次 司				
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。・</p> <p>【ねらい】・ 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>(到達目標)(1)複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できるようにする。・ (2)地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解できるようにする。・ (5)介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会とのかかわりを理解できるようにする。・</p>					
履修における注意事項(受講ルールなど)					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	尊厳を支える介護①(介護のイメージ、介護とは何か、お世話と介護の違い)			講義	渡慶次 司
2	尊厳を支える介護②(高齢化率、ADL、IADL、QOLについて)			講義	渡慶次 司
3	尊厳を支える介護③(生活にとって大切な要素について)			講義	渡慶次 司
4	介護を必要とする人の理解①(障がいをもった人の暮らしを支える介護について)			講義	渡慶次 司
5	尊厳を支える介護とは④(介護デー実習の内容をグループで共有する)			講義・演習	渡慶次 司
6	介護福祉士を取り巻く状況①(日本の介護の歴史・介護問題の背景等)			講義	渡慶次 司
7	介護福祉士を取り巻く状況②(日本の介護の歴史・介護問題の背景等)			講義	渡慶次 司
8	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ①(社会福祉士及び介護福祉士法の改正)			講義	渡慶次 司
9	ノーマライゼーションの考え方、ノーマライゼーションの実現、その他			講義	渡慶次 司
10	利用者主体の考え方とその具体的な取り組み(高齢者の生活で援助者が気をつけること)			講義	渡慶次 司
11	介護を必要とする人の理解②(居宅介護生活の実際をビデオ視聴から学ぶ)			講義・演習	渡慶次 司
12	介護を必要とする人の理解③(Aさんのケースから学ぶ)			講義・演習	渡慶次 司
13	介護サービス①(介護保険サービスの種類;施設・居宅・地域密着型サービスについて)			講義	渡慶次 司
14	介護サービス②(介護保険サービスのまとめ)			講義	渡慶次 司
15	まとめ、試験			講義	渡慶次 司
<p>■期末試験(40)% ■提出物(20)% □小テスト()% □実技試験()%</p> <p>□口頭試問()% □発表()% ■その他(中間試験)(40)%</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>					
教科書					
書名		著者		出版社	
最新・介護福祉士養成講座「3 介護の基本1」中央法規出版 2020年				中央法規出版	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)					



授業科目名	介護の基本③				
担当者	渡慶次 司				
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。・ 【ねらい】・ 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>(到達目標)(3)介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を養う。・ (4)ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解できるようにする。・</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	自立に向けた介護①(ICFの考え方、ICFのモデルの基本的特徴の理解)			講義	渡慶次 司
2	自立に向けた介護②(リハビリテーションの考え方・概念・実際)			講義	渡慶次 司
3	介護従事者の倫理①(職業倫理、介護と人権、介護福祉士の倫理性)			講義	渡慶次 司
4	介護従事者の倫理②(利用者の人権と介護、身体拘束禁止、高齢者虐待)			講義	渡慶次 司
5	自立に向けた介護③(自立支援・自己選択、自立支援の考え方、その他)			講義	渡慶次 司
6	自立に向けた介護④(個別ケアの考え方、個別ケアの具体的展開、その他)			講義	渡慶次 司
7	まとめ、試験			講義	渡慶次 司
8	介護実践における連携①(生活課題解決の多職種連携の必要性を学ぶ)			講義	渡慶次 司
9	介護実践における連携②(事例をもとにグループ演習、まとめ、発表)			講義・演習	渡慶次 司
10	生活障害の理解と生活環境の重要性・ (望ましい生活環境を整えることの大切を学ぶ)・			講義・演習	渡慶次 司
11	介護従事者の安全①(介護従事者の身体への健康障害の現状について)			講義	渡慶次 司
12	介護従事者の安全②(ノーリフティングポリシーに基づいた移動・移乗介助)			実技演習	渡慶次 司
13	介護従事者の安全③(ノーリフティングポリシーに基づいた移動・移乗介助)			実技・演習	渡慶次 司
14	地域密着型サービス(小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護)			講義	渡慶次 司
15	まとめ、試験			講義	渡慶次 司
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (40) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (20) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中間試験) (40) %					
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					
教科書					
書名		著者		出版社	
最新・介護福祉士養成講座 「3 介護の基本Ⅰ」 中央法規出版 2020年				中央法規出版	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）					



授業科目名	介護の基本④				
担当者	金城 要/ 専任教員/ 非常勤講師				
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士法の立案月に「介護デー」と題し、福祉施設を見聞し福祉精神の涵養を図る。・ ・医療福祉の施設を見学し、介護を必要とする人の理解、施設の概要や場の特性等を学ぶ。・ ・介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。・ <p>【ねらい】・</p> <p>介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p>					
<p>(到達目標)(1)複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できるようにする。・</p> <p>(2)地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解できるようにする。・</p> <p>(3)介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を養う。・</p> <p>(4)ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解できるようにする。・</p> <p>(5)介護を必要とする人の生活の個性に対応するために、生活の多様性や社会とのかかわりを理解できるようにする。・</p> <p>(6)介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解できるようにする。・</p> <p>(7)多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解できるようにする。・</p> <p>(8)介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できるようにする。・</p> <p>(9)介護従事者自身が心身に健康に介護を実践するための健康管理や学習環境の管理について理解できるようにする。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・					
授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	介護デー①(一日体験ボランティア学習;介護を必要とする人の実際の生活を学ぶ)	実技	金城 要/ 非常勤講師		
2	介護デー②	実技	金城 要/ 非常勤講師		
3	介護デー③	実技	金城 要/ 非常勤講師		
4	介護デー④	実技	金城 要/ 非常勤講師		
5	介護デー報告会・準備①	講義・演習	金城 要/ 専任教員		
6	介護デー報告会・準備②	講義・演習	金城 要/ 専任教員		
7	介護デー報告会・準備③	講義・演習	金城 要/ 専任教員		
8	介護デー報告会①	講義・演習	金城 要/ 専任教員		
9	介護デー報告会②	講義・演習	金城 要/ 専任教員		
10	介護デー報告会③	講義・演習	金城 要/ 専任教員		
11	介護デー報告会④	講義・演習	金城 要/ 専任教員		
12	介護保険施設見学①(介護療養型医療施設)	実技	金城 要/ 非常勤講師		
13	介護保険施設見学②(介護療養型医療施設)	実技	金城 要/ 非常勤講師		
14	介護保険施設見学③(介護療養型医療施設)	実技	金城 要/ 非常勤講師		
15	介護保険施設見学④(介護療養型医療施設)	実技	金城 要/ 非常勤講師		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (30) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (20) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (20) % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中間試験) (30) %					
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					
教科書					
書名	著者	出版社			
最新・介護福祉士養成講座「3 介護の基本I」中央法規出版 2020年		中央法規出版			
書名	著者	出版社			
参考書					

書名	著者	出版社
書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	介護の基本⑤				
担当者	金城 要				
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。・ 【ねらい】・ 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p>					
<p>(到達目標)(6)介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解できるようにする。・ (7)多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解できるようにする。・ (8)介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できるようにする。・ (9)介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できるようにする。</p>					
履修における注意事項(受講ルールなど)					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	介護デーオリエンテーション			講義・演習	金城 要
2	職業倫理			講義・演習	金城 要
3	介護実践における連携			講義・演習	金城 要
4	介護実践における連携			講義・演習	金城 要
5	介護における安全の確保とリスクマネジメント(安全管理、対策)			講義・演習	金城 要
6	介護における安全の確保とリスクマネジメント(安全管理、対策)			講義・演習	金城 要
7	介護サービス提供の場の特性(障害サービス)			講義・演習	金城 要
8	介護における安全の確保とリスクマネジメント(感染管理、対策)			講義・演習	金城 要
9	介護における安全の確保とリスクマネジメント(感染管理、対策)			講義・演習	金城 要
10	介護にかかわる人の健康管理、労働環境			講義・演習	金城 要
11	介護にかかわる人の健康管理、労働環境			講義・演習	金城 要
12	まとめ、試験			講義	金城 要
13	介護サービス提供の場の特性(介護老人福祉施設)			講義・演習	金城 要
14	介護サービス提供の場の特性(介護老人福祉施設)			講義・演習	金城 要
15	介護サービス提供の場の特性(訪問介護)			講義・演習	金城 要
■期末試験(100)% □提出物()% □小テスト()% □実技試験()% □口頭試問()% □発表()% □その他()()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					
教科書					
書名		著者		出版社	
最新・介護福祉士養成講座「3 介護の基本1」中央法規出版 2020年				中央法規出版	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)					



授業科目名	介護の基本⑥				
担当者	金城 要				
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 他の領域の専門性を取り入れ、生活支援の視点から統合されることの重要性を学び、生活支援を行うための根拠となる知識を習得する。・ 【ねらい】・ 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p>					
<p>(到達目標)・他の領域で学んだ「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の視点から介護の専門性を理解し、生活支援の根拠が説明できる。・ ・さまざまな状態・状況にある「利用者理解」と、それをもとにした「利用者にあった生活支援技術・その根拠」を広く学ぶことによって、求められている介護福祉士像に一步近づくことができる。・</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験</p>					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	まとめ学習①			講義	金城 要
2				講義・演習	金城 要
3	まとめ学習②			講義	金城 要
4				講義・演習	金城 要
5	まとめ学習③			講義	金城 要
6				講義・演習	金城 要
7	まとめ学習④			講義	金城 要
8				講義・演習	金城 要
9	まとめ学習⑤			講義	金城 要
10				講義・演習	金城 要
11	まとめ学習⑥			講義	金城 要
12				講義・演習	金城 要
13	まとめ学習⑦			講義	金城 要
14				講義・演習	金城 要
15				講義	金城 要
<p>■期末試験（100）% □提出物（ ）% □小テスト（ ）% □実技試験（ ）% □口頭試問（ ）% □発表（ ）% □その他（ ）（ ）%</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>					
教科書					
書名		著者		出版社	
最新・介護福祉士養成講座 「3 介護の基本1」中央法規出版 2020年				中央法規出版	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）					



授業科目名	コミュニケーション技術①				
担当者	羽鳥 訓秀				
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ コミュニケーション技術では、人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。・</p> <p>【ねらい】・ 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。</p> <p>(到達目標)(1)本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術が身につくようにする。・ (2)家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術が身につくようにする。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	I. 介護におけるコミュニケーションの基本・ 1. 介護場面におけるコミュニケーションの意義・目的・役割・			講義	羽鳥 訓秀
2	2. 利用者との関係づくり			講義	羽鳥 訓秀
3	3. 生活支援における介護技術とコミュニケーション			講義	羽鳥 訓秀
4	II. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション			講義	羽鳥 訓秀
5	1. 話を聴く技法			講義	羽鳥 訓秀
6	2. 質問の技法			講義	羽鳥 訓秀
7	"			講義	羽鳥 訓秀
8	3. 利用者の意欲を引き出す技法			講義	羽鳥 訓秀
9	"			講義	羽鳥 訓秀
10	まとめ、試験			講義	羽鳥 訓秀
11	III. 利用者の特性(状況・状態)に応じたコミュニケーション技法			講義	羽鳥 訓秀
12	1. コミュニケーション障害の理解			講義	羽鳥 訓秀
13	2. コミュニケーション障害のある利用者への対応			講義	羽鳥 訓秀
14	ロールプレイ、討議法、プロセスレコード			講義	羽鳥 訓秀
15	"、まとめ			講義	羽鳥 訓秀
<input type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () %					
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					
教科書					
書名		著者		出版社	
最新・介護福祉士養成講座「5 コミュニケーション技術」				中央法規出版 2020年	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）					



授業科目名	コミュニケーション技術②		
担当者	羽鳥 訓秀/ 山梨 敦也		
開講年次	1年	開講期	1年後期
授業回数	30	単位数	
授業の概要・到達目標			
<p>(概要)コミュニケーション技術では、人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。*</p> <p>【ねらい】*</p> <p>(到達目標)(3)障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術が身につくようにする。*</p> <p>(4)情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解できるようにする。</p>			
履修における注意事項（受講ルールなど）			
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上) *</p> <p>授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験</p>			
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。			
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	IV. 利用者に応じたコミュニケーション技法の実際	講義・演習	羽鳥 訓秀
2	1. コミュニケーション障害のある利用者を捉える視点	講義・演習	羽鳥 訓秀
3	2. 高次脳機能障害の応じたコミュニケーション技術	講義・演習	羽鳥 訓秀
4	3. 失語症・構音障害に応じたコミュニケーション技術	講義・演習	羽鳥 訓秀
5	4. 認知症・若年性認知症に応じたコミュニケーション技術	講義・演習	羽鳥 訓秀
6	5. 視力・聴力(聞こえ)の障害に応じたコミュニケーション技術	講義・演習	羽鳥 訓秀
7	6. 知的障害・精神障害に応じたコミュニケーション技術	講義・演習	羽鳥 訓秀
8	V. チームのコミュニケーションとは・方法・必要性 * 1. 介護記録の意義と目的・介護における記録の種類、書き方の留意点 *	講義・演習	羽鳥 訓秀
9	2. 報告・連絡・相談 * 3. 会議の種類と運用 *	講義・演習	羽鳥 訓秀
10	まとめ・試験		羽鳥 訓秀
11	VI.記録活用・情報の保護と管理、情報通信技術(IT) * 1. 介護記録項目や帳票のカスタマイズ *	講義・演習	山梨 敦也
12	2. ロボット介護機器とセンサー	講義・演習	山梨 敦也
13	3. 介護ICT/IOLに必要なネット環境システム連携	講義・演習	山梨 敦也
14	4. 介護ビッグデータ	講義・演習	山梨 敦也
15	5. 介護AI まとめ・試験	講義・演習	山梨 敦也
<p>■期末試験 (50) % ■提出物 (10) % □小テスト () % □実技試験 () %</p> <p>□口頭試問 () % □発表 () % ■その他 (中間試験) (40) %</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>			
教科書			
書名	著者	出版社	
書名	著者	出版社	
参考書			
書名	著者	出版社	

書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	生活支援技術A（環境・睡眠）		
担当者	専任教員/ 非常勤講師		
開講年次	1年	開講期	1年前期
授業回数	30	単位数	
授業の概要・到達目標			
<p>(概要)・ 生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】・ 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p>			
<p>(到達目標)(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。・ (4)健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解できるようにする。・</p>			
履修における注意事項（受講ルールなど）			
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験			
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。			
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1～4	・ベッドメイキングの意義と目的・寝具の選択、リネン類のたたみ方、必要物品、 その他の留意点、デモンストレーション ・環境整備の意義と方法	実技・演習	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
5～8	ベッドメイキングの実際	実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
9～11	ベッドメイキング(実技試験)	実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
12・13	ベッドに臥床している人がいる場合のシーツ交換の実際	実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
14・15	ベッドに臥床している人がいる場合のシーツ交換の実際(実技試験)	実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
<p>■期末試験（50）% □提出物（ ）% □小テスト（ ）% ■実技試験（100）% □口頭試問（ ）% □発表（ ）% ■その他（中間試験）（50）%</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>			
教科書			
書名	著者	出版社	
最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」		中央法規出版	
書名	著者	出版社	
「7 生活支援技術Ⅱ」、「8 生活支援技術Ⅲ」		中央法規出版	
参考書			
書名	著者	出版社	
書名	著者	出版社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）			



授業科目名	生活支援技術B（移動）		
担当者	専任教員/ 非常勤講師		
開講年次	1年	開講期	1年前期
授業回数	30	単位数	
授業の概要・到達目標			
<p>（概要）・ 生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】・ 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p>			
<p>（到達目標）(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。</p>			
履修における注意事項（受講ルールなど）			
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験</p>			
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。			
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1～4	移動の意義と目的・演習	講義・実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
5～8	体位変換(水平移動・ベッド上部へ・仰向け臥位・側臥位・長座位・端座位)	実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
9～12	車椅子の名称、車椅子での移動・ベッドへの移乗(スライディングボードの使用等)	実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
13・14	歩行の介助・杖歩行(3動作歩行介助、障害物(段差や溝)越えの介助、階段の上り下りの介助)	実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
	まとめ、試験	実技、講義	専任教員
<p>■期末試験（80）％ ■提出物（20）％ □小テスト（ ）％ ■実技試験（100）％ □口頭試問（ ）％ □発表（ ）％ □その他（ ）（ ）％</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>			
教科書			
書名	著者	出版社	
最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」		中央法規出版	
書名	著者	出版社	
「7 生活支援技術Ⅱ」、 「8 生活支援技術Ⅲ」		中央法規出版	
参考書			
書名	著者	出版社	
書名	著者	出版社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）			



授業科目名	生活支援技術C（食事）		
担当者	専任教員/ 渡慶次 司/ 非常勤講師		
開講年次	1年	開講期	1年前期
授業回数	30	単位数	
授業の概要・到達目標			
<p>（概要）・ 生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】・ 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p>			
<p>（到達目標）(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。</p>			
履修における注意事項（受講ルールなど）			
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験</p>			
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。			
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1～6	食事の意義と目的、食事に関する利用者のアセスメント	講義	渡慶次 司
		実技	渡慶次 司/ 非常勤講師
		実技	渡慶次 司/ 非常勤講師
		演習・実技	渡慶次 司
		演習・実技	渡慶次 司
		演習・実技	渡慶次 司
7・8	食事介助の実際(おいしく食べることを支える食事の支援)	実技	渡慶次 司
		実技	渡慶次 司
9・10	誤嚥・窒息・脱水の予防のための日常生活の留意点、他職種連携協働	演習・実技	渡慶次 司
		実技	渡慶次 司
1～13	口腔ケアの基礎と実際(ブラッシング)	講義・演習・実技	渡慶次 司
		演習・実技	渡慶次 司
		演習・実技	渡慶次 司
	口腔ケアの実際(口腔清拭、義歯の取り扱い)	実技	渡慶次 司
	まとめ、試験		渡慶次 司
<p>■期末試験（80）% ■提出物（20）% □小テスト（ ）% □実技試験（ ）% □口頭試問（ ）% □発表（ ）% □その他（ ）（ ）%</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>			
教科書			
書名	著者	出版社	
書名	著者	出版社	
参考書			
書名	著者	出版社	
書名	著者	出版社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）			



授業科目名	生活支援技術D (身じたく・福祉用具)		
担当者	金城 知子/ 専任教員/ 渡慶次 司/ 非常勤講師		
開講年次	1年, 2年	開講期	1年前期, 2年前期
授業回数	32	単位数	
授業の概要・到達目標			
<p>(概要)・ 生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】・ 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p>			
<p>(到達目標)(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。・ (6)介護ロボットを含め、福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得できるようにする。・</p>			
履修における注意事項 (受講ルールなど)			
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験			
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。			
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1~4	身だしなみの意義と目的・実際(ひげや爪の手入れ, 化粧)・ 身だしなみの実際・	講義・演習	渡慶次 司
		実技	渡慶次 司
		演習・実技	渡慶次 司
		実技	渡慶次 司
5~8	衣服の着脱の意義と目的・実際・ (麻痺側がある場合・一人で行う場合の支援の方法)・	演習・実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
9~11	衣服の着脱の介助の実際、まとめ、試験	実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
2~16	福祉用具の種類と取り扱い方 -2年次-	実技	金城 知子
		実技	金城 知子
<p>■期末試験 (50) % □提出物 () % □小テスト () % ■実技試験 (100) % □口頭試験 () % □発表 () % ■その他 (中間試験) (50) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>			
教科書			
書名	著者	出版社	
最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」		中央法規出版	
書名	著者	出版社	
「7 生活支援技術Ⅱ」、 「8 生活支援技術Ⅲ」		中央法規出版	
参考書			
書名	著者	出版社	

書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	生活支援技術E（排泄）		
担当者	専任教員/ 非常勤講師		
開講年次	1年, 2年	開講期	1年後期, 2年前期
授業回数	28	単位数	
授業の概要・到達目標			
<p>(概要)・ 生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】・ 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p>			
(到達目標)(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。			
履修における注意事項（受講ルールなど）			
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験			
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。			
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1～3	排泄の意義と目的・実際、アセスメントの視点・ 排泄を支える介護の工夫(我慢させない工夫,羞恥心に配慮した排泄できる・ 環境づくり・安全・的確な排泄の介助の技法(トイレ、ポータブルトイレ)・	講義・演習	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
4～6	排泄を支える介護の工夫(採尿器・差し込み便器)	演習・実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員
	まとめ	演習・実技	専任教員/ 非常勤講師
	試験		専任教員
9～14	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の応用 -2年次-	実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
	まとめ(試験)		専任教員/ 非常勤講師
<p>■期末試験（30）% ■提出物（20）% □小テスト（ ）% ■実技試験（25）% □口頭試問（ ）% □発表（ ）% ■その他（中間試験）（25）%</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>			
教科書			
書名	著者	出版社	
最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」		中央法規出版	
書名	著者	出版社	
「7 生活支援技術Ⅱ」、「8 生活支援技術Ⅲ」		中央法規出版	
参考書			
書名	著者	出版社	
書名	著者	出版社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）			



授業科目名	生活支援技術F（清潔）		
担当者	専任教員/ 非常勤講師		
開講年次	1年	開講期	1年後期
		授業回数	30
		単位数	
授業の概要・到達目標			
<p>(概要)・ 生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】・ 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p>			
(到達目標)(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。			
履修における注意事項（受講ルールなど）			
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験			
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。			
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1～4	入浴の意義と目的・演習・アセスメント・安全・的確な入浴・清潔保持の介助の・ 技法①特殊浴槽②シャワー浴	講義・演習	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
5～8	全身清拭デモンストレーション・アセスメント	講義・演習	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
9～12	全身清拭実習	実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
13・14	部分浴の実際(手浴,足浴等)	実技	専任教員/ 非常勤講師
		実技	専任教員/ 非常勤講師
	まとめ、試験	実技、講義	専任教員
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (25) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中間試験) (25) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。			
教科書			
	書名	著者	出版社
	最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」		中央法規出版
	書名	著者	出版社
	「7 生活支援技術Ⅱ」、 「8 生活支援技術Ⅲ」		中央法規出版
参考書			
	書名	著者	出版社
	書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）			



授業科目名	生活支援技術G (点字、手話)		
担当者	伊山 梓/ 当間 義昭		
開講年次	1年, 2年	開講期	1年前期, 2年前期
授業回数	40	単位数	
授業の概要・到達目標			
<p>(概要)・ 生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】・ 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。・ ・</p>			
(到達目標)(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。・			
履修における注意事項 (受講ルールなど)			
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験			
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。			
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	手話は世界共通かどうか、ろう教育と手話について、数字の表現方法長田 梓		伊山 梓
2	指文字の練習 学科試験の内容と学習・挨拶の練習		伊山 梓
3	指文字の練習 プリント単語練習		伊山 梓
4	前回までの復習		伊山 梓
5	実技試験練習 自己紹介(名前,住所,家族,趣味)		伊山 梓
6	介護に必要な単語・医療用語		伊山 梓
7	指文字,住所(地名),趣味,色の練習		伊山 梓
8	復習,実技試験で気をつけること		伊山 梓
9	まとめ、実技・筆記試験		伊山 梓
10	まとめ、実技・筆記試験		伊山 梓
11	視覚障害のある人の介護の実際 ・講義オリエンテーション		当間 義昭
12	視機能について		当間 義昭
13	点字 短文の書き方		当間 義昭
14	点字 数字・外国語		当間 義昭
15	点字 応用問題		当間 義昭
16	視覚障害者移動介助の基本的な留意点		当間 義昭
17	屋外移送の方法 ビデオ・デモンストレーション		当間 義昭
18	屋外歩行の実技		当間 義昭
19	屋外歩行の実技 白杖操作・単独歩行実技		当間 義昭
20	まとめ・筆記試験		当間 義昭
<p>■期末試験 (50) % □提出物 () % □小テスト () % ■実技試験 (25) % □口頭試問 () % □発表 () % ■その他 (中間試験) (25) %</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>			
教科書			
書名	著者	出版社	
最新・介護福祉士養成講座「8 生活支援技術Ⅲ」		中央法規出版 2020年	
書名	著者	出版社	
参考書			
書名	著者	出版社	

書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	生活支援技術H（終末期、救急法）						
担当者	粟國 美由紀/ 金城 要/ 非常勤講師						
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	20	単位数	
授業の概要・到達目標							
<p>(概要)・生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p>							
<p>(到達目標)(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。・(5)人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解できるようにする。</p>							
履修における注意事項（受講ルールなど）							
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験							
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容				方法 (講義・実技・演習)	担当者	
	終末期における介護の意義と目的・アセスメント					金城 要	
	医療との連携 終末期における介護・臨終時の介護(ビデオ視聴)・沖縄県内の葬祭の違い・他都道府県との葬祭の違い					金城 要	
3~4	エンゼルケアの実践(演習)					金城 要/ 非常勤講師	
						金城 要/ 非常勤講師	
5~6	応急手当の知識と技術・ 1. 傷病者の応急手当について 2. 応急手当の実践					粟國 美由紀	
						粟國 美由紀	
7~8	3. 緊急時の対応 一般的な救急法(ALS)・ ①傷病者への対応 ②AEDの使い方					金城 要/ 粟國 美由紀/ 非常勤講師	
						金城 要/ 粟國 美由紀/ 非常勤講師	
9~10	災害時における生活支援 1. 被災者を巡る様々な支援の実践 2. 災害者特性に応じた生活支援					金城 要	
						金城 要	
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (50) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (中間試験) (50) %							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」				中央法規出版			
書名		著者		出版社			
「7 生活支援技術Ⅱ」、「8 生活支援技術Ⅲ」				中央法規出版			
参考書							
書名		著者		出版社			

書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	生活支援技術Ⅰ（家政、調理、住居）				
担当者	宮城 祥子/ 金城 典子/ 松本 京子/ 非常勤講師				
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	60
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>（概要）・生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p>					
<p>（到達目標）(1)生活の豊かさや心身の活性化、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解できるようにする。・ (3)生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得できるようにする。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
出席状況（授業時間数の3分の2以上）・授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	家事支援における介護技術・オリエンテーション		宮城 祥子		
2	家事支援における介護技術 1		宮城 祥子		
3	家事支援における介護技術 2		宮城 祥子		
4	家事支援における介護技術 3		宮城 祥子		
5	家事支援における介護技術 4		宮城 祥子		
6	基礎縫いー1		宮城 祥子		
7	基礎縫いー2		宮城 祥子		
8	基礎縫いー3		宮城 祥子		
9	ミシン操作		宮城 祥子		
10	ミシン操作		宮城 祥子		
11	ボタンホール,ホック等		宮城 祥子		
12	ボタンホール,ホック等		宮城 祥子		
13	課題作品作成		宮城 祥子		
14	課題作品作成		宮城 祥子		
15	まとめ・試験		宮城 祥子		
16	弁当の日,オリエンテーション		金城 典子		
17	栄養素について		金城 典子		
18	献立の立て方,食品の購入・保存		金城 典子		
19	調理の基本		金城 典子		
20	高齢者の栄養と食		金城 典子		
21	疾患と食事		金城 典子		
22	まとめ・試験		金城 典子		
23	住環境の整備の意義と目的		松本 京子		
24	安心して快適な生活の場作り 1		松本 京子		
25	” 2		松本 京子		
26	住まいの種類と特徴・中村家見学		松本 京子		
27	中村家見学の振り返り,生活空間と介護		松本 京子		
28	安心して快適な生活の場作り		松本 京子		
29	課題発表		松本 京子		
30	まとめ・試験		松本 京子		
<input type="checkbox"/> 期末試験（25）% <input checked="" type="checkbox"/> 提出物（25）% <input type="checkbox"/> 小テスト（ ）% <input type="checkbox"/> 実技試験（ ）% <input type="checkbox"/> 口頭試問（ ）% <input type="checkbox"/> 発表（ ）% <input checked="" type="checkbox"/> その他（中間）（50）%					
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					

教科書		
書名	著者	出版社
最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」 2020年		中央法規出版
書名	著者	出版社
「7 生活支援技術Ⅱ」 「8 生活支援技術Ⅲ」		
参考書		
書名	著者	出版社
書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	生活支援技術統合（家事、実技）				
担当者	宮城 祥子/ 渡慶次 司/ 非常勤講師				
開講年次	1年	開講期	1年前期, 1年後期	授業回数	20
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>（概要）・ 生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【ねらい】・ 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p>					
<p>（到達目標）(2)対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
出席状況（授業時間数の3分の2以上）・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
	生活を支援する視点、生活支援の基本的な考え方・福祉用具の活用・ (介護予防等)・				宮城 祥子
	家庭生活の理解(家事の意義と目的)				宮城 祥子
	家事支援における介護技術(調理・洗濯・掃除・ゴミ捨て・衣類の管理)				宮城 祥子
	" (買い物・家庭経営・家計の管理)				宮城 祥子
	まとめ・試験				宮城 祥子
6~7	実技試験デモンストレーション ・事例(障害のある利用者の介護)・				渡慶次 司/ 非常勤講師
					渡慶次 司/ 非常勤講師
8~10	まとめ、実技試験				渡慶次 司/ 非常勤講師
					渡慶次 司/ 非常勤講師
					渡慶次 司/ 非常勤講師
<p>■期末試験（50）% □提出物（ ）% □小テスト（ ）% ■実技試験（50）% □口頭試問（ ）% □発表（ ）% □その他（ ）（ ）%</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>					
教科書					
	書名	著者	出版社		
	最新・介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」		中央法規出		
	書名	著者	出版社		
	「7 生活支援技術Ⅱ」、 「8 生活支援技術Ⅲ」		中央法規出版		
参考書					
	書名	著者	出版社		
	書名	著者	出版社		

教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）

授業科目名	介護過程①				
担当者	金城 要				
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。・ 【ねらい】・ 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。</p>					
<p>(到達目標)(1)介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法が理解できるようにする。・ (2)個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるようにする。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験</p>					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	介護過程を学ぶ前に(自分自身を表現する)(自己紹介)			講義	金城 要
2	介護過程を学ぶ前に(くらしとは?)			講義	金城 要
3	利用者の思いや願いに気づく(かかわるとは?)			講義	金城 要
4~5	問題解決思考について			講義、演習	金城 要
					金城 要
6	介護過程について(意義と目的)			講義	金城 要
7~8	介護過程について(生活支援の考え方と介護過程の必要性)			講義	金城 要
					金城 要
9	介護過程の理解(介護過程の全体像)			講義、演習	金城 要
10	介護過程の理解(アセスメント)			講義、演習	金城 要
11	介護過程の理解(情報収集)			講義、演習	金城 要
12	介護過程の理解(情報の分析)			講義、演習	金城 要
13	介護過程の理解(課題の明確化)			講義、演習	金城 要
14	事例演習			講義、演習	金城 要
15	まとめ、筆記試験			講義	金城 要
<p>■期末試験(40)% ■提出物(20)% □小テスト()% □実技試験()% □口頭試問()% □発表()% ■その他(中間試験)(40)%</p>					
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					
教科書					
書名		著者		出版社	
最新・介護福祉士養成講座「9 介護過程」				中央法規出版	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)					



授業科目名	介護過程②				
担当者	渡慶次 司				
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。・ 【ねらい】・ 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。</p>					
<p>(到達目標)(1)介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法が理解できるようにする。・ (2)個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるようにする。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験</p>					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	介護過程の実際にて、真実の情報を確認する			講義	渡慶次 司
2	個別援助計画の立案について(事例を用いて)			講義	渡慶次 司
3	アセスメントに必要な事実の捉え方			講義	渡慶次 司
4	介護過程の立案			講義	渡慶次 司
5	介護過程の中の事実の捉え方・ ・			講義	渡慶次 司
6	自立に向けた介護過程①(清潔保持)			講義、演習	渡慶次 司
7	自立に向けた介護過程②(清潔保持)			講義、演習	渡慶次 司
8	事例検討①(個別演習)			演習	渡慶次 司
9	事例検討②(グループワーク)			演習	渡慶次 司
10	事例検討③(個別演習)			演習	渡慶次 司
11	事例検討④(グループワーク)			演習	渡慶次 司
12	実際のビデオを視聴して、利用者ニーズを把握する			講義	渡慶次 司
13	介護過程の立案①			講義、【演習	渡慶次 司
14	介護過程の立案②			講義、演習	渡慶次 司
15	まとめ、筆記試験			講義	渡慶次 司
<p>■期末試験（80）％ ■提出物（20）％ □小テスト（ ）％ □実技試験（ ）％ □口頭試問（ ）％ □発表（ ）％ □その他（ ）（ ）％</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>					
教科書					
書名		著者		出版社	
最新・介護福祉士養成講座「9 介護過程」				中央法規出版	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）					



授業科目名	介護過程③				
担当者	金城 要/ 渡慶次 司				
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。・ 【ねらい】・ 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。</p>					
<p>(到達目標)(1)介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法が理解できるようにする。・ (2)個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるようにする。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験</p>					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	介護過程とケアマネジメントの関係性			講義	金城 要/ 渡慶次 司
2	ケアプランと個別援助計画の関係性			講義	金城 要/ 渡慶次 司
3	チームアプローチにおける介護福祉士の役割			講義	渡慶次 司
4	情報の共有とアセスメントツールの活用①			講義	渡慶次 司
5	情報の共有とアセスメントツールの活用②			講義	渡慶次 司
6	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開①			講義	渡慶次 司
7	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開②			講義	渡慶次 司
8	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開③			講義	渡慶次 司
9	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開④			講義	渡慶次 司
10	まとめ、筆記試験			講義	渡慶次 司
11	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開(障がい施設)			講義、演習	金城 要
12	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開(障がい施設)			講義、演習	金城 要
13	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開(訪問介護)			講義、演習	金城 要
14	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開(介護老人福祉施設)			講義、演習	金城 要
15	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開(介護老人福祉施設)			講義、演習	金城 要
<p>■期末試験(50)% □提出物()% □小テスト()% □実技試験()% □口頭試問()% □発表()% ■その他(中間試験)(50)%</p>					
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					
教科書					
書名		著者		出版社	
最新・介護福祉士養成講座「9 介護過程」				中央法規出版	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)					



授業科目名	介護過程④				
担当者	栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司				
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	60
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。・ 【ねらい】・ 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。</p>					
<p>(到達目標)(1)介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法が理解できるようにする。・ (2)個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるようにする。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験</p>					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1～2	実習中間の振り返り(介護過程の展開の進行状況)	講義、演習	金城 要		
			金城 要		
3～4	実習の振り返りと事例研究について	講義、演習	金城 要		
			金城 要		
5～6	事例研究について	講義、演習	金城 要		
			金城 要		
7～16	事例研究の資料作成	講義、演習	金城 要		
			金城 要		
			金城 要		
			金城 要		
			金城 要		
			金城 要		
			金城 要		
			金城 要		
			金城 要		
			金城 要		
17～20	事例研究発表の準備	講義・演習	金城 要		
			金城 要		
			金城 要		
			金城 要		
21～30	事例研究発表①	講義・演習	金城 要/ 渡慶次 司/ 栗國 美由紀		
			金城 要/ 渡慶次 司/ 栗國 美由紀		
			金城 要/ 渡慶次 司/ 栗國 美由紀		
24～28	事例研究発表②	講義・演習	金城 要/ 渡慶次 司/ 栗國 美由紀		
			金城 要/ 渡慶次 司/ 栗國 美由紀		
			金城 要/ 渡慶次 司/ 栗國 美由紀		
			金城 要/ 渡慶次 司/ 栗國 美由紀		
29～30	事例研究発表③	講義・演習	金城 要/ 渡慶次 司/ 栗國 美由紀		
			金城 要/ 渡慶次 司/ 栗國 美由紀		
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (50) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % ; <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭質問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (50) % <input type="checkbox"/> その他 () () %					
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					

教科書		
書名	著者	出版社
最新・介護福祉士養成講座「9 介護過程」		中央法規出版
書名	著者	出版社
最新・介護福祉士養成講座「10 介護総合演習・介護実習」		中央法規出版
参考書		
書名	著者	出版社
書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	介護総合演習①		
担当者	栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司		
開講年次	1年	開講期	1年前期
		授業回数	30
		単位数	
授業の概要・到達目標			
<p>(概要)・ 介護総合演習は、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習とする。・ 【ねらい】・ 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。</p>			
<p>(到達目標)(1)介護実習の効果を上げるため、事前に実習する施設や事業所について理解が深まるようにするとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながるようにする。・ (2)実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。・ (3)所定時間内に講義内容を消化し、演習内容を消化し、実習内容を消化し、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。</p>			
履修における注意事項（受講ルールなど）			
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験			
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。			
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	実習オリエンテーション	講義	渡慶次 司
2	実習関連記録について	講義	渡慶次 司
3	施設理解	講義	渡慶次 司
4	実習事前学習発表	講義	渡慶次 司
5	実習事後指導①(通所介護実習を終えてのまとめ,実習報告会に向けての準備)	講義	渡慶次 司
6	実習事後指導②(老健実習を終えてのまとめ,実習報告会に向けての準備)	講義	渡慶次 司
7~8	実習報告会①(通所介護実習を終えての個人及びグループの発表)	講義、演習	栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
			栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
9~10	実習報告会②(通所介護実習を終えての個人及びグループの発表)	講義、演習	栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
			栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
11~12	実習報告会③(通所介護実習を終えての個人及びグループの発表)	講義、演習	栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
			栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
13~14	実習報告会④(老健実習を終えての個人及びグループの発表)	講義、演習	栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
			栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
15	実習報告会⑤(老健実習を終えての個人及びグループの発表)	講義、演習	栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (30) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (70) % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。			
教科書			
書名	著者	出版社	
最新・介護福祉士養成講座「10 介護総合演習・介護実習」		中央法規出版	
書名	著者	出版社	
参考書			
書名	著者	出版社	
書名	著者	出版社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）			





授業科目名	介護総合演習③				
担当者	栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司				
開講年次	2年	開講期	2年前期, 2年後期	授業回数	60
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 介護総合演習は、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習とする。・ 【ねらい】・ 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。</p>					
<p>(到達目標)(1)介護実習の効果を上げるため、事前に実習する施設や事業所について理解が深まるようにするとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながるようにする。・ (2)実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。・</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	実習オリエンテーション・ (尊厳ある介護、個別ケア、自立支援等について学ぶ)・			講義	金城 要
2	事前学習(障がい者支援施設実習準備・記録類の確認)			講義	金城 要
3~4	事後学習の意義と目的			講義	金城 要
				講義	金城 要
5~6	事後学習(障がい者支援施設実習振り返り・記録の手直し)			講義	金城 要
				講義	金城 要
7	事後学習(障がい者支援施設実習報告会準備)1			講義、演習	金城 要
8	事後学習(障がい者支援施設実習報告会準備)2			講義、演習	金城 要
9	事後学習(障がい者支援施設実習報告会準備)3			講義、演習	金城 要
10~18	実習報告会(障がい者支援施設)			演習	栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
					栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
					栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
					栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
					栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
					栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
					栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
					栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
					栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
					栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
					栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
19~22	実習報告会(訪問介護)			演習	栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
					栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
					栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
					栗國 美由紀/ 金城 要/ 渡慶次 司
23	実習オリエンテーション(実習Ⅱについて学ぶ)			講義、演習	金城 要
24	事前学習(実習Ⅱの準備・記録類の確認)1			講義、演習	金城 要
25	事前学習(実習Ⅱの準備・記録類の確認)2			講義、演習	金城 要
26	事前学習(実習Ⅱの準備・記録類の確認)3			講義、演習	金城 要
27	中間学習(実習Ⅱの進捗状況の確認、振り返り)1			講義、演習	金城 要
28	中間学習(実習Ⅱの進捗状況の確認、振り返り)2			講義、演習	金城 要
29	中間学習(実習Ⅱの進捗状況の確認、振り返り)3			講義、演習	金城 要
30	まとめ			講義	金城 要

期末試験 () % 提出物 (30) % 小テスト () % 実技試験 () %
 口頭試問 () % 発表 (70) % その他 () () %

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教科書		
書名	著者	出版社
最新・介護福祉士養成講座「10 介護総合演習・介護実習」		中央法規出版
書名	著者	出版社
参考書		
書名	著者	出版社
書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	実習 I (通所介護)						
担当者	専任教員/ 非常勤講師						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	80	単位数	
授業の概要・到達目標							
(概要)【ねらい】 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。							
(到達目標)【1年前期】 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の日常生活や生活環境、疾病・障害を理解することができる。* ・利用者と積極的にコミュニケーションを図ることができる。* ・家族の関わりや家族支援について理解することができる。* ・基本的な介護技術を確認し、身につけることができる。* ・介護職の業務の流れを理解できる。* ・提供される介護内容の必要性を理解できる。* ・基本的な記録物(実習日誌、介護記録等)が作成できる。* ・自己目標を達成するための計画的な取り組みができる。* ・マナー、職務規定を守ることができる。* ・他職種の役割を理解できる。* 【1年後期、2年前期】 <ul style="list-style-type: none"> ・多様な施設・事業所の役割を理解できる。* ・さまざまな利用者の生活像、障害像を理解できる。* ・障害特性に応じたコミュニケーションを図ることができる。* ・障害特性や利用者のニーズに応じた介護方法を習得する。* ・介護実践に必要な情報を収集することができる。* ・自分の実践について説明することができる。* ・福祉用具や福祉機器の知識や活用能力を身につける。* ・チームにおける各職種の役割について理解することができる。* ・介護理念・倫理について理解を深める。* ・利用者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解できる。* ・利用者の居住環境における支援体制のあり方を理解できる。* 							
履修における注意事項 (受講ルールなど)							
通所介護(デイサービス)実習 10日間 出席状況(授業時間数の3分の2以上)、実習に取り組む姿勢							
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	実習 1日目(オリエンテーション)			実技	非常勤講師		
2	実習 2日目			実技	非常勤講師		
3	実習 3日目			実技	非常勤講師		
4	実習 4日目			実技	非常勤講師		
5	実習 5日目			実技	非常勤講師		
6	実習 6日目			実技	非常勤講師		
7	実習 7日目			実技	非常勤講師		
8	実習 8日目			実技	非常勤講師		
9	実習 9日目			実技	非常勤講師		
10	実習 10日目 (反省会ー自己評価)			実技	非常勤講師/ 専任教員		

<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (実習評価表) (100) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。		
教科書		
書名	著者	出版社
書名	著者	出版社
参考書		
書名	著者	出版社
書名	著者	出版社
教員からのメッセージ (予習・復習の方法に関するアドバイスなど)		

授業科目名	実習 I (GH)		
担当者	専任教員/ 非常勤講師		
開講年次	1年	開講期	1年後期
授業回数	80	単位数	
授業の概要・到達目標			
<p>(概要)【ねらい】 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。</p>			
<p>(到達目標)・多様な施設・事業所の役割を理解できる。・ ・さまざまな利用者の生活像、障害像を理解できる。・ ・障害特性に応じたコミュニケーションを図ることができる。・ ・障害特性や利用者のニーズに応じた介護方法を習得する。・ ・介護実践に必要な情報を収集することができる。・ ・自分の実践について説明することができる。・ ・福祉用具や福祉機器の知識や活用能力を身につける。・ ・チームにおける各職種の役割について理解することができる。・ ・介護理念・倫理について理解を深める。・ ・利用者の個性を尊重した自立支援のあり方を理解できる。・ ・利用者の居住環境における支援体制のあり方を理解できる。</p>			
履修における注意事項 (受講ルールなど)			
<p>認知症対応型共同生活介護(8時間×10日間)・ 出席状況(授業時間数の3分の2以上)、実習に取り組む姿勢</p>			
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。			
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	実習 1日目(オリエンテーション)	実技	非常勤講師
2	実習 2日目	実技	非常勤講師
3	実習 3日目	実技	非常勤講師
4	実習 4日目	実技	非常勤講師
5	実習 5日目	実技	非常勤講師
6	実習 6日目	実技	非常勤講師
7	実習 7日目	実技	非常勤講師
8	実習 8日目	実技	非常勤講師
9	実習 9日目	実技	非常勤講師
10	実習 10日目(反省会ー自己評価)	実技	非常勤講師/ 専任教員
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (実習評価表) (100) %			
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。			
教科書			
書名	著者	出版社	
書名	著者	出版社	
参考書			
書名	著者	出版社	

書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	実習 I (障がい部門)		
担当者	専任教員/ 非常勤講師		
開講年次	2年	開講期	2年前期
授業回数	80	単位数	
授業の概要・到達目標			
<p>(概要)【ねらい】 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。</p>			
<p>(到達目標)・多様な施設・事業所の役割を理解できる。 ・さまざまな利用者の生活像、障害像を理解できる。 ・障害特性に応じたコミュニケーションを図ることができる。 ・障害特性や利用者のニーズに応じた介護方法を習得する。 ・介護実践に必要な情報を収集することができる。 ・自分の実践について説明することができる。 ・福祉用具や福祉機器の知識や活用能力を身につける。 ・チームにおける各職種の役割について理解することができる。 ・介護理念・倫理について理解を深める。 ・利用者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解できる。 ・利用者の居住環境における支援体制のあり方を理解できる。</p>			
履修における注意事項 (受講ルールなど)			
障がい部門(8時間×10日間) 出席状況(授業時間数の3分の2以上)、実習に取り組む姿勢			
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。			
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	実習 1日目(オリエンテーション)	実技	非常勤講師
2	実習 2日目	実技	非常勤講師
3	実習 3日目	実技	非常勤講師
4	実習 4日目	実技	非常勤講師
5	実習 5日目	実技	非常勤講師
6	実習 6日目	実技	非常勤講師
7	実習 7日目	実技	非常勤講師
8	実習 8日目	実技	非常勤講師
9	実習 9日目	実技	非常勤講師
10	実習 10日目(反省会ー自己評価)	実技	非常勤講師/ 専任教員
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input checked="" type="checkbox"/> その他 (実習評価表) (100) %			
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。			
教科書			
書名	著者	出版社	
書名	著者	出版社	
参考書			
書名	著者	出版社	

書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	実習Ⅱ						
担当者	専任教員/ 非常勤講師						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	200	単位数	
授業の概要・到達目標							
<p>(概要)【ねらい】・ 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。</p>							
<p>(到達目標)・利用者個々の生活リズムや個性に応じた生活支援のあり方を理解することができる。・ ・ターミナルケアの理解を深める。・ ・一連の介護過程の展開を継続的に実践することができる。・ ・チームの一員として介護を遂行することができる。介護福祉士を目指すものとして専門性のあり方を理解できる。</p>							
履修における注意事項（受講ルールなど）							
老健、特養(8時間×25日)・ 出席状況(授業時間数の3分の2以上)、実習に取り組む姿勢							
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	実習オリエンテーション、臨地実習1日目・			実技	非常勤講師		
2	実習 2日目			実技	非常勤講師		
3	実習 3日目			実技	非常勤講師		
4	実習 4日目			実技	非常勤講師		
5	実習 5日目			実技	非常勤講師		
6	実習 6日目			実技	非常勤講師		
7	実習 7日目			実技	非常勤講師		
8	実習 8日目			実技	非常勤講師		
9	実習 9日目			実技	非常勤講師		
10	実習 10日目			実技	非常勤講師		
11	実習 11日目			実技	非常勤講師		
12	実習 12日目			実技	非常勤講師		
13	実習 13日目			実技	非常勤講師		
14	実習 14日目			実技	非常勤講師		
15	実習 15日目			実技	非常勤講師		
16	実習 16日目			実技	非常勤講師		
17	実習 17日目			実技	非常勤講師		
18	実習 18日目			実技	非常勤講師		
19	実習 19日目			実技	非常勤講師		
20	実習 20日目			実技	非常勤講師		
21	実習 21日目			実技	非常勤講師		
22	実習 22日目			実技	非常勤講師		
23	実習 23日目			実技	非常勤講師		
24	実習 24日目			実技	非常勤講師		
25	実習 25日目（反省会—自己評価）			実技	非常勤講師/ 専任教員		
<input type="checkbox"/> 期末試験（ ）% <input type="checkbox"/> 提出物（ ）% <input type="checkbox"/> 小テスト（ ）% <input type="checkbox"/> 実技試験（ ）% <input type="checkbox"/> 口頭試問（ ）% <input type="checkbox"/> 発表（ ）% ■その他（実習評価表）（100）% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			

書名	著者	出版社
参考書		
書名	著者	出版社
書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	発達と老化の理解				
担当者	金武 朝成				
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 発達と老化の理解では、介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。・ 【ねらい】・ 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に (到達目標)(1)人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解できるようにする。・ (2)老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解できるようにする。</p>					
履修における注意事項(受講ルールなど)					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	発達とは			講義	金武 朝成
2	人間の発達段階と発達課題			講義	金武 朝成
3	発達と個人差			講義	金武 朝成
4	老化とは			講義	金武 朝成
5	老年期の発達課題 1			講義	金武 朝成
6	老年期の発達課題 2			講義	金武 朝成
7	老年期の発達課題 3			講義	金武 朝成
8	老化が及ぼす心理的影響			講義	金武 朝成
9	老化による身体的機能の変化と心理的影響			講義	金武 朝成
10	高齢者の心理 1			講義	金武 朝成
11	高齢者の心理 2			講義	金武 朝成
12	高齢者の心理 3			講義	金武 朝成
13	高齢者の心理 4			講義	金武 朝成
14	高齢者の心理 5			講義	金武 朝成
15	まとめ、筆記試験			講義	金武 朝成
■期末試験(50)% ■提出物(50)% □小テスト()% □実技試験()% □口頭試問()% □発表()% □その他() ()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					
教科書					
書名		著者		出版社	
最新・介護福祉士養成講座「12 発達と老化の理解」				中央法規出版 2020年	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)					



授業科目名	発達と老化の理解				
担当者	仲里 艶子				
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 発達と老化の理解では、介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期)における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と(到達目標)(2)老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解できるようにする。</p>					
履修における注意事項(受講ルールなど)					
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験</p>					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	オリエンテーション、高齢者の症状・疾患の特徴 1	講義	仲里 艶子		
2	高齢者の症状・疾患の特徴 2	講義	仲里 艶子		
3	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響・ ・免疫機能の変化・感覚機能の変化・	講義	仲里 艶子		
4	高齢者に多い症状・訴えとその留意点 1	講義	仲里 艶子		
5	高齢者に多い症状・訴えとその留意点 2	講義	仲里 艶子		
6	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響・ ・咀嚼機能や消化機能の変化・循環器・呼吸器の機能の変化・	講義	仲里 艶子		
7	高齢者に多い病気とその留意点 1	講義	仲里 艶子		
8	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響 -(1)・ ・筋、骨、関節、泌尿器、生殖機能の変化	講義	仲里 艶子		
9	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響 -(2)・ ・体温維持機能の変化	講義	仲里 艶子		
10	高齢者に多い病気とその留意点 2	講義	仲里 艶子		
11	高齢者に多い病気とその留意点 3-(1)	講義	仲里 艶子		
12	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響・ ・記憶機能の変化(感覚記憶,短期記憶,長期記憶)・ ・認知機能の変化・	講義	仲里 艶子		
13	高齢者に多い病気とその留意点 3-(2)	講義	仲里 艶子		
14	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響・ ・保健医療職との連携・	講義	仲里 艶子		
15	まとめ、筆記試験	講義	仲里 艶子		
<p>■期末試験(80)% ■提出物(20)% □小テスト()% □実技試験()% □口頭試問()% □発表()% □その他()()%</p>					
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					

教科書		
書名	著者	出版社
最新・介護福祉士養成講座 「12 発達と老化の理解」2020年		中央法規出版
書名	著者	出版社
参考書		
書名	著者	出版社
書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	障害の理解				
担当者	緒方 茂樹				
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。・ 【ねらい】・ 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。</p>					
<p>(到達目標)(1)障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できるようにする。・ (2)医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できるようにする。・ (3)障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができるようにする。・ (4)障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できるようにする。・ (5)障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことができるようにする。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
<p>出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験</p>					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	障害の概念、オリエンテーション	講義	緒方 茂樹		
2	障害者福祉の基本的理念・障害の種別と程度	講義	緒方 茂樹		
3	障害のある人の医学的理解・心理的理解・ICFの構成体系	講義	緒方 茂樹		
4	ノーマライゼーションⅠ	講義	緒方 茂樹		
5	ノーマライゼーションⅡ	講義	緒方 茂樹		
6	ICF	講義	緒方 茂樹		
7	障害者と福祉Ⅰ（障害受容）	講義	緒方 茂樹		
8	障害者と福祉Ⅱ（障害受容）	講義	緒方 茂樹		
9	障害の事例	講義	緒方 茂樹		
10	まとめ、中間試験	講義	緒方 茂樹		
11	日本の福祉と歴史	講義	緒方 茂樹		
12	障害特性についての考え方とアプローチ、ユニバーサルデザイン	講義	緒方 茂樹		
13	チームアプローチⅠ(事例研究)	講義、演習	緒方 茂樹		
14	チームアプローチⅡ(事例研究)	講義、演習	緒方 茂樹		
15	まとめ・終講試験	講義	緒方 茂樹		
<p>■期末試験（100）％ □提出物（ ）％ □小テスト（ ）％ □実技試験（ ）％ □口頭試験（ ）％ □発表（ ）％ □その他（ ）（ ）％ ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>					
教科書					
書名	著者	出版社			
最新・介護福祉士養成講座「14 障害の理解」		中央法規出版 2020年			
書名	著者	出版社			
最新・介護福祉士養成講座「13 障害の理解」		中央法規出版 2020年			
参考書					
書名	著者	出版社			
書名	著者	出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）					



授業科目名	障害の理解						
担当者	栗國 美由紀/ 安森 盛一/ 屋比久 真希子/ 照屋 若夏/ 照屋 盛之/ 青野 健治/ 島袋 公史						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	
授業の概要・到達目標							
<p>(概要)・ 障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。・ 【ねらい】・ 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。</p>							
<p>(到達目標)(1)障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できるようにする。・ (2)医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できるようにする。・ (3)障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができるようにする。・ (4)障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できるようにする。・ (5)障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことができるようにする。</p>							
履修における注意事項（受講ルールなど）							
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験							
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	言語・聴覚障害のある人の生活の理解					講義	屋比久 真希子
2~3	運動機能障害のある人の生活の理解					講義	島袋 公史
						講義、演習	島袋 公史
4~5	精神障害のある人と家族支援					講義	照屋 盛之
						講義	照屋 盛之
6~7	呼吸機能障害のある人の生活の理解					講義	青野 健治
						講義、演習	青野 健治
8~9	高次脳機能障害のある人の生活の理解					講義	照屋 若夏
						講義	照屋 若夏
10~12	内部障害、難病のある人の生活の理解					講義	栗國 美由紀
						講義	栗國 美由紀
						講義	栗國 美由紀
13~14	重複障害(盲ろう)、知的障害、発達障害のある人の生活の理解					講義	安森 盛一
						講義	安森 盛一
15	まとめ、筆記試験					講義	栗國 美由紀
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名			著者		出版社		
最新・介護福祉士養成講座 「13 障害の理解」 2020年					中央法規出版		
書名			著者		出版社		
最新・介護福祉士養成講座 「8 生活支援技術Ⅲ」 2020年					中央法規出版		
参考書							
書名			著者		出版社		
書名			著者		出版社		
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）							



授業科目名	認知症の理解				
担当者	羽鳥 訓秀				
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 認知症の理解では、認知症を取り巻く状況、認知症ケアの歴史や理念等について学ぶ。また、認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解する。さらに利用者個々の特性を踏まえた適切なケアを提供するための知識や支援方法、地域で生活する認知症のある人とその家族の支援体制のあり方、多職種連携・協働のあり方について学ぶ。・</p> <p>【ねらい】・ 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、</p> <p>(到達目標)(1)認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について理解できるようにする。・ (2)医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解できるようにする。・ (3)認知症の人の生活及び家族や社会とのかかわりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなぐことができるようにする。・ (4)認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できるようにする。・ (5)認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことができるようにする。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	認知症ケアの歴史	講義	羽鳥 訓秀		
2	認知症の人の理解-尊厳	講義	羽鳥 訓秀		
3	脳のしくみ	講義	羽鳥 訓秀		
4	認知症の人のケアマネジメント	講義	羽鳥 訓秀		
5	若年性アルツハイマー型認知症	講義	羽鳥 訓秀		
6~7	認知症の原因疾患、診断と治療	講義	羽鳥 訓秀		
		講義	羽鳥 訓秀		
8	認知症の予防・心理的理解	講義	羽鳥 訓秀		
9	地域連携と多職種連携	講義	羽鳥 訓秀		
10	認知症の人の体験の理解1	講義	羽鳥 訓秀		
11	認知症の人の体験の理解2	講義	羽鳥 訓秀		
12	認知症の人への生活支援1	講義	羽鳥 訓秀		
13	認知症の人への生活支援2	講義	羽鳥 訓秀		
14	認知症サポーター養成講座	講義	羽鳥 訓秀		
15	まとめ、筆記試験	講義	羽鳥 訓秀		
■期末試験（100）% □提出物（ ）% □小テスト（ ）% □実技試験（ ）% □口頭試験（ ）% □発表（ ）% □その他（ ）（ ）% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					
教科書					
書名		著者	出版社		
最新・介護福祉士養成講座 「13 認知症の理解」			中央法規出版 2020年		
書名		著者	出版社		
参考書					
書名		著者	出版社		
書名		著者	出版社		
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）					



授業科目名	認知症の理解				
担当者	徳盛 裕元				
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 認知症の理解では、認知症を取り巻く状況、認知症ケアの歴史や理念等について学ぶ。また、認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解する。さらに利用者個々の特性を踏まえた適切なケアを提供するための知識や支援方法、地域で生活する認知症のある人とその家族の支援体制のあり方、多職種連携・協働のあり方について学ぶ。・</p> <p>【ねらい】・ 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、(到達目標)(3)認知症の人の生活及び家族や社会とのかかわりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなぐことができるようにする。・</p> <p>(4)認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できるようにする。・</p> <p>(5)認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことができるようにする。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	認知症の人に対する介護 認知症の人へのかかわりの基本			講義	徳盛 裕元
2	認知症への気づき・認知症の人の介護過程			講義	徳盛 裕元
3	認知症の人の介護過程			講義	徳盛 裕元
4	認知症の進行に応じた介護			講義	徳盛 裕元
5	地域の力を活かす;地域におけるサポート体制・チームアプローチ			講義	徳盛 裕元
6	家族の力を活かす 介護者自身の体験・レスパイトケア			講義	徳盛 裕元
7	家族会と介護教室			講義	徳盛 裕元
8	認知症に関する制度・関係機関			講義	徳盛 裕元
9	認知症対策と介護保険制度、その他の施策			講義	徳盛 裕元
10	地域活動の実際を見学（地域主催の講演会へ参加）1			演習	徳盛 裕元
11	地域活動の実際を見学（地域主催の講演会へ参加）2			演習	徳盛 裕元
12	地域活動の実際を見学（地域主催の講演会へ参加）3			演習	徳盛 裕元
13	グループ学習 1			演習	徳盛 裕元
14	グループ学習 2			演習	徳盛 裕元
15	まとめ、筆記試験			講義	徳盛 裕元
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験（100）% <input type="checkbox"/> 提出物（ ）% <input type="checkbox"/> 小テスト（ ）% <input type="checkbox"/> 実技試験（ ）% <input type="checkbox"/> 口頭試問（ ）% <input type="checkbox"/> 発表（ ）% <input type="checkbox"/> その他（ ）（ ）% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					
教科書					
書名		著者		出版社	
最新・介護福祉士養成講座 「13 認知症の理解」2020年				中央法規出版	
書名		著者		出版社	
参考書					
書名		著者		出版社	
書名		著者		出版社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）					



授業科目名	こころとからだのしくみ				
担当者	粟國 美由紀/ 久高 将臣/ 緒方 茂樹				
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	60
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとからだのしくみの基礎を学ぶ。・ こころとからだのしくみの知識を基に、利用者の身じたくや食事、排泄などの生活を支える介護実践との関係を学ぶ。また、終末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支援を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。・ 【ねらい】・ 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。・ ・医療、福祉現場における多職種との連携に必要な共通専門用語を学び、チームの一員として協働できる能力を身につける。・医学的な身体構造と機能を学習し、疾病、障害、ICFの考え方に向けて、生活支援するための根拠となる基礎的知識を習得する。また、沖縄で問題となる嗜好性疾患も学ぶ。</p>					
<p>(到達目標)(1)介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解できるようにする。・ (2)生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できるようにする。・ (3)人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要な知識を理解できるようにする。・</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	こころのしくみ -心身の調和・生命の維持と恒常性のしくみ	講義	粟國 美由紀		
2	からだのしくみ -こころとからだの関係	講義	粟國 美由紀		
3	からだの形と臓器の場所、からだの部位の名称	講義	粟國 美由紀		
4～5	からだの部位と役割 -細胞・組織・器官	講義	粟國 美由紀		
	・	講義	粟國 美由紀		
6～7	2・	講義	粟國 美由紀		
		講義	久高 将臣/ 粟國 美由紀		
8～9	2・	講義	久高 将臣		
		講義	粟國 美由紀		
10～11	活動・移動に関連したしくみ -骨・関節・筋肉 1・	講義	粟國 美由紀/ 久高 将臣		
		講義	久高 将臣		
12～13	活動・移動に関連したしくみ -骨・関節・筋肉 1	講義	粟國 美由紀		
		講義	粟國 美由紀		
14～15	身じたくに関連したしくみ -⑥感覚器系	講義	粟國 美由紀		
		講義	粟國 美由紀		
16	まとめ、中間試験	講義	粟國 美由紀		

17～18	食べるに関連したしくみ	－⑦代謝・内分泌	講義	栗國 美由紀
			講義	栗國 美由紀
19～20	排泄に関連したしくみ	－⑧腎・⑨泌尿器	講義	栗國 美由紀
			講義	栗國 美由紀
21～22	生殖に関連したしくみ①	－⑩生殖器	講義	栗國 美由紀
			講義	栗國 美由紀
23～24	からだの中を循環するしくみ①	－⑪血液成分	講義	栗國 美由紀
			講義	栗國 美由紀
25～26	からだの中を循環するしくみ②	－⑫循環器	講義	栗國 美由紀
			講義	栗國 美由紀
27～28	「生きている証」の測定	－バイタルサイン測定方法	講義	栗國 美由紀
	〃	－測定方法の実際	講義	栗國 美由紀
29	身じたくに関連したしくみと変化への対応		講義	栗國 美由紀
30	まとめ、終講試験		講義	栗國 美由紀
<p>■期末試験（80）％ ■提出物（20）％ □小テスト（ ）％ □実技試験（ ）％ □口頭試問（ ）％ □発表（ ）％ □その他（ ）（ ）％</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>				
教科書				
書名		著者	出版社	
最新・介護福祉士養成校座 「11 こころからだのしくみ」中央法規出版2020年			中央法規出版	
書名		著者	出版社	
「6 生活支援技術Ⅰ」、 「7 生活支援技術Ⅱ」、 「8 生活支援技術Ⅲ」				
参考書				
書名		著者	出版社	
書名		著者	出版社	
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）				

授業科目名	こころのしくみ				
担当者	緒方 茂樹				
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	20
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとからだのしくみの基礎を学ぶ。・ こころとからだのしくみの知識を基に、利用者の身じたくや食事、排泄などの生活を支える介護実践との関係を学ぶ。また、終末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支援を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。・ 【ねらい】・ 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。・ ・医療、福祉現場における多職種との連携に必要な共通専門用語を学び、チームの一員として協働できる能力を身につける。・医学的な身体構造と機能を学習し、疾病、障害、ICFの考え方に向けて、生活支援するための根拠となる基礎的知識を習得する。また、沖縄で問題となる嗜好性疾患も学ぶ。</p>					
<p>(到達目標)(1)介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解できるようにする。・ (2)生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できるようにする。・ (3)人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要な知識を理解できるようにする。・</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	こころのしくみを理解する 人間の欲求とは			講義	緒方 茂樹
2	こころと脳のつながり 「こころ」とは何か			講義	緒方 茂樹
3	脳のしくみ、学習・記憶・思考のしくみ			講義	緒方 茂樹
4	感情のしくみ・認知のしくみ			講義	緒方 茂樹
5	意欲・動機づけのしくみ			講義	緒方 茂樹
6	適応のしくみ、適応障害			講義	緒方 茂樹
7	アクティブ・ラーニング 1)			講義、演習	緒方 茂樹
8	アクティブ・ラーニング 2)			講義、演習	緒方 茂樹
9	アクティブ・ラーニング 3)			講義、演習	緒方 茂樹
10	まとめ、筆記試験			講義	緒方 茂樹
■期末試験(100)% □提出物()% □小テスト()% □実技試験()% □口頭試験()% □発表()% □その他()()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					
教科書					
書名		著者		出版社	
最新・介護福祉士養成校座 「14 障害の理解」				中央法規出版 2020年	
書名		著者		出版社	
「11 こころとからだのしくみ」				中央法規出版 2020年	
参考書					
書名		著者		出版社	

書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	からだのしくみ						
担当者	栗國 美由紀						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	40	単位数	
授業の概要・到達目標							
<p>(概要)・ 介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとからだのしくみの基礎を学ぶ。・ こころとからだのしくみの知識を基に、利用者の身じたくや食事、排泄などの生活を支える介護実践との関係を学ぶ。また、終末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支援を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。・ 【ねらい】・ 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。・ ・医療、福祉現場における多職種との連携に必要な共通専門用語を学び、チームの一員として協働できる能力を身につける。・医学的な身体構造と機能を学習し、疾病、障害、ICFの考え方に向けて、生活支援するための根拠となる基礎的知識を習得する。また、沖縄で問題となる嗜好性疾患も学ぶ。</p>							
<p>(到達目標)・ (1)介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解できるようにする。・ (2)生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できるようにする。・ (3)人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要な知識を理解できるようにする。</p>							
履修における注意事項（受講ルールなど）							
出席状況（授業時間数の3分の2以上）・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験・							
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1～3	移動に関連したしくみと変化への対応 一運動器官、関節可動域、良支位			講義、演習	栗國 美由紀		
					栗國 美由紀		
					栗國 美由紀		
4～6	食事に関連したしくみと変化への対応 一栄養素の種類と働き			講義、演習	栗國 美由紀		
					栗國 美由紀		
					栗國 美由紀		
7～9	入浴・清潔保持に関連したしくみと変化への対応 一皮膚、汗、褥瘡			講義、演習	栗國 美由紀		
					栗國 美由紀		
					栗國 美由紀		
	まとめ、中間試験			講義	栗國 美由紀		
11～13	排泄に関連したしくみと変化への対応 一排泄器官、便・尿、ストーマ			講義、演習	栗國 美由紀		
					栗國 美由紀		
					栗國 美由紀		
14～16	睡眠に関連したしくみと変化への対応 一自律神経、レム・ノンレム			講義、演習	栗國 美由紀		
					栗國 美由紀		
					栗國 美由紀		
17～18	「死」のとらえ方・終末期から危篤・死亡時のからだの理解 一エンゼルケア			講義、演習	栗國 美由紀		
					栗國 美由紀		
	死後の処置等・医療従事者との連携			講義	栗國 美由紀		
	まとめ、終講試験			講義	栗國 美由紀		
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (80) % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (20) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () %							

口頭試問 () % 発表 () % その他 () () %

ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

教科書		
書名	著者	出版社
最新・介護福祉士養成校座「11 こととからだのしくみ」		中央法規出版2020年
書名	著者	出版社
参考書		
書名	著者	出版社
書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	医療的ケア（基本研修）						
担当者	栗園 美由紀/ 横内 さおり/ 宮本 しのぶ/ 赤嶺 雅江/ 専任教員/ 非常勤講師						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	20	単位数	
授業の概要・到達目標							
<p>【概要】 医療的ケアでは、医療的ケア実施の基礎と喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)、経管栄養(基礎的知識・実施手順)について学ぶ。 【ねらい】 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 1. 介護福祉士が医療的ケアを行う歴史的背景について理解する。 2. 予防方法について理解できる。 3. 健康な状態について理解し、急変状態がわかる。</p>							
<p>【到達目標】(1)医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアの倫理上の留意点」、「医療的ケアを実施するために感染予防」、「安全管理体制」等についての基礎的知識を理解できるようにする。 (2)喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解できるようにする。 (3)経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解できるようにする。 (4)安全な喀痰吸引等の実施のため、確実な手技を習得できるようにする。</p>							
履修における注意事項（受講ルールなど）							
出席状況(授業時間数の3分の2以上) 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験							
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	講義オリエンテーション、『医療的ケア』導入の経緯			講義	栗園 美由紀/ 専任教員		
2	第Ⅰ部 第1章 人間と社会 人間の理解			講義	宮本 しのぶ/ 非常勤講師		
3	第1章 人間と社会 社会の理解			講義	宮本 しのぶ/ 非常勤講師		
4	第2章 保険医療制度とチーム医療			講義	宮本 しのぶ/ 非常勤講師		
5	第3章 安全な療養生活 救急蘇生・緊急時の対応			講義	宮本 しのぶ/ 非常勤講師		
6	第4章 清潔保持と感染予防 手洗いうがい、手袋ガウンの装着等(演習) 第5章 健康状態の把握 バイタルチェック 第4章 清潔保持と感染予防 手洗いうがい、手袋ガウンの装着等(演習) 第5章 健康状態の把握 バイタルチェック			講義	宮本 しのぶ/ 非常勤講師		
7~9	救急蘇生法の実際(模型人形での訓練) 1. 救急法受講オリエンテーション 2. 基礎講習-心臓マッサージ・人工呼吸法・AEDの取り扱い方法			講義	専任教員/ 非常勤講師		
				講義	宮本 しのぶ/ 非常勤講師		
				講義・演習	宮本 しのぶ/ 非常勤講師		
10	まとめ、終講試験			講義	栗園 美由紀/ 専任教員		
■期末試験（90）% ■提出物（10）% □小テスト（ ）% □実技試験（ ）% □口頭試問（ ）% □発表（ ）% □その他（ ）（ ）%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							

教科書		
書名	著者	出版社
喀痰吸引・経管栄養研修テキスト	(株) 全国訪問看護事業協会 編集	中央法規出版株式会社
書名	著者	出版社
参考書		
書名	著者	出版社
書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

18~19	デモ、演習	演習	栗國 美由紀
19	デモ、演習	演習	栗國 美由紀
20	まとめ、終講試験	演習、講義	栗國 美由紀
<input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (100) % <input type="checkbox"/> 提出物 () % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input type="checkbox"/> 実技試験 () % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。			
教科書			
	書名	著者	出版社
	喀痰吸引・経管栄養研修テキスト	(株) 全国訪問看護事業協会 編集	中央法規出版株式会社
	書名	著者	出版社
参考書			
	書名	著者	出版社
	書名	著者	出版社
教員からのメッセージ (予習・復習の方法に関するアドバイスなど)			

授業科目名	医療的ケア（基本研修）				
担当者	栗國 美由紀/ 赤嶺 雅江				
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	20
単位数					
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)・ 医療的ケアでは、医療的ケア実施の基礎と喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)、経管栄養(基礎的知識・実施手順)について学ぶ。 【ねらい】・ 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。</p>					
<p>(到達目標)・ (2)喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解できるようにする。・ (3)経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解できるようにする。・ (4)安全な喀痰吸引等の実施のため、確実な手技を習得できるようにする。</p>					
履修における注意事項（受講ルールなど）					
出席状況(授業時間数の3分の2以上)・ 授業に取り組む姿勢、課題提出状況、筆記試験					
授業スケジュール ※事前に説明があった上で、変更される場合があります。					
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1～8	I. 吸引法の技術確認とデモスト、演習オリエンテーション・ ①口腔内吸引法 ②鼻腔内吸引法 ③気管チューブ内吸引法、滅菌手袋着脱法、ガウンテクニック・ II. 経管栄養法の技術確認とデモ 演習オリエンテーション・ ④経鼻経管栄養法 ⑤胃ろう栄養法	講義・演習	栗國 美由紀/ 赤嶺 雅江		
			栗國 美由紀		
			栗國 美由紀		
			栗國 美由紀		
			栗國 美由紀		
			栗國 美由紀		
			栗國 美由紀		
			栗國 美由紀/ 赤嶺 雅江		
9	実技達成度チェック、実技試験、まとめ	実技	栗國 美由紀/ 赤嶺 雅江		
10	実技達成度チェック、実技試験、まとめ	実技、講義	栗國 美由紀/ 赤嶺 雅江		
<input type="checkbox"/> 期末試験 () % <input checked="" type="checkbox"/> 提出物 (10) % <input type="checkbox"/> 小テスト () % <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (90) % <input type="checkbox"/> 口頭試問 () % <input type="checkbox"/> 発表 () % <input type="checkbox"/> その他 () () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。					
教科書					
書名		著者	出版社		
喀痰吸引・経管栄養研修テキスト		(株) 全国訪問看護事業協会 編集	中央法規出版株式会社		
書名		著者	出版社		
参考書					

書名	著者	出版社
書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		